

〈報道関係者各位〉

2011年1月28日(金)

フィアスホーム『和暮』 2年連続受賞！

～ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック 2010～

株式会社トステム住宅研究所
フィアスホームカンパニー

トステムやINAXなどの事業会社を擁する株式会社住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開している株式会社トステム住宅研究所 フィアスホームカンパニー(東京都江東区亀戸 1-5-7/フィアスホームカンパニー プレジデント:条生秀人)は、この度、財団法人日本地域開発センター(主務官庁:国土交通省)主催の表彰制度「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック 2010」において、太陽光発電搭載・電気自動車対応住宅の『和暮』が、省エネ・省CO₂に優れていると評価され、**優秀賞を受賞しました**。尚、フィアスホームとして、昨年の大賞受賞に引き続き、2年連続での受賞となります。

受賞商品『和暮』は、フィアスホームがこれまでに構築した「高気密・高断熱技術」「少エネルギー技術」「創エネルギー技術」をベースに、風や光などの自然エネルギーを活用する技術をさらに強化し、先人の知恵や日本家屋の伝統技術に最先端テクノロジーを融合させ、風と光を極めた新エコデザインの和の住まいとしてさらなるECO生活を提案する住宅です。また、省エネ性能を「eレポート」・「性能報告書」等で見える化し、ユーザーに分かりやすく提案する仕組みを取り入れております。



《受賞商品「和暮」外観イメージ》

■ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリックとは

財団法人日本地域開発センターが主催する省エネルギー住宅のトップランナーを表彰する制度で、2007年度に創設されて以来、毎年、省エネ・少CO₂に優れたオール電化住宅が表彰されています。オール電化住宅の中から、「外皮・設備の省エネルギー性能」「トータルな省エネルギー性能向上のための工夫と先進性」「他の性能と省エネルギー性とのバランス・連携」「省エネ住宅の普及に関わる取組」といった視点でスマート(省エネ・少CO₂に優れた)住宅を選定し表彰することによって、国の環境政策と省エネルギーに寄与すると共に、オール電化住宅の普及と性能向上を目指しています。(財団法人日本地域開発センターのパンフレットより)



※この件に関する報道関係者様からのお問い合わせは下記までお願い致します。

(株)トステム住宅研究所 広報・宣伝室 広報担当:千明まで

電話:03-5626-8251

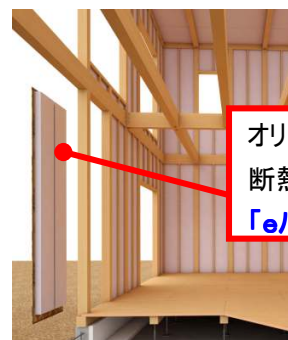
フィアスホームホームページ/TOP URL:<http://www.fiace.jp/>

優秀賞受賞 フィアスホーム『和暮』商品特長

『和暮』は、「省エネから“少”エネ・創エネへ」をコンセプトに開発した商品です。長期にわたって“少”エネを実現する為に、4つの段階(仕様決定⇒設計⇒施工⇒居住)に分け、全ての段階で品質を確保する工夫を施しています。優れた“少”エネのベースとなるのは、オリジナル高性能断熱材一体型パネル「eパネル」による“高気密・高断熱技術”(=閉じる技術)、風・光等の自然エネルギーを活用する“風と光のデザイン”(=開ける技術)です。さらに踏み込んで、太陽光発電システム(=創エネ)と電気自動車を組み合わせることでECO生活を実現する概念として、『エネルギー循環型システム』を提案しています。

●閉じる技術 ～高気密・高断熱・日射遮蔽～

次世代省エネ基準に対応した高気密・高断熱躯体として、フィアスホームオリジナルの高性能断熱材一体型パネル「eパネル」を標準仕様に設定。さらに、軒の出を深くすることで、冬季は室内に日差しをたくさん取り込み、夏季には日差しや熱気の進入を抑えるとともに、涼風を室内に上手に取り込むための工夫をしています。外気による影響を抑えて冷暖房効率を高めることで快適性とECO生活を両立します。



オリジナル高性能
断熱材一体型パネル
「eパネル」

●開ける技術 ～風と光のデザイン～

春や秋には、自然の力を活かし、ハイサイドライトサッシ・欄間付き室内建具・吹き抜けによる自然換気や温度差換気を利用。さらに、通風シミュレーションより1つの開口でより大きな通風効果を得られる窓「フル3Dウィンドウ」を標準採用すること等により、できるだけエアコンや人工照明に頼らないECO生活への配慮を施しています。



「横」の風を取り込む



「正面」の風を取り込む
「フル3Dウィンドウ」

●創エネルギー技術 ～太陽光発電システム～

“電気を創る”太陽光発電システムを標準採用。電気を全て買う暮らしから、自分の家で電気を創り、余った電気を電力会社に売るゆとりある生活を提案しています。



「通風・日照シミュレーション」

●性能の見える化

省エネ効果を、冷暖房費・CO₂削減量に置き換えて提案する「eレポート」と、建物の断熱性や気密性を邸別でお客様に提示する「性能報告書」により、性能の見える化を、さらには、「通風・日照シミュレーション」で建築地の通風等の状況を考慮した平面・立面計画のアドバイスを邸別で実施しています。

●創エネと自家消費の『エネルギー循環型システム』

将来的な電気自動車の普及に備え、電気自動車充電設備を標準採用。将来的には電気自動車を蓄電池として活用し、深夜電力を蓄えることで、環境負荷が小さく、安価なエネルギーで生活できる『エネルギー循環型システム』の構築を目指します。



「エネルギー循環型システム」の概念図